

# INTERVIEW

電力・ガス取引監視等委員会事務局 ネットワーク事業監視課

芥子 和史 係長

着任時期：2022年4月

経歴：金融機関



ー電取委に着任された経緯や理由があればお聞かせください。ー

金融機関では、電取委とは業務上の接点がないキャリアを歩んでいましたが、当時の上司から紹介されたことをきっかけに電取委を知り、その門を叩くことになりました。機会があれば社外に出て仕事してみたいと思っていたところ、結果として希望が叶った形になりました。

ー着任にあたって不安などはありましたか？ー

非常に忙しそうというイメージがある中、自分に務まるだろうかという不安はありました。また、民間企業の中でも金融機関は堅い方だと思っていましたが、それとはまた違った堅さがありそうというイメージもあり、組織風土の違いにも対応できるかという点も不安でした。行政の舵取りを担う存在として隙を見せないようにしなければ、と気を引き締めつつ、前任者からは、外部人材へのサポートは厚いという話を聞いており、その点は安心材料でした。

ーでは実際に着任されてみていかがでしたか？ー

想像していたよりも風通しが良く、驚きました。職階の垣根があまりなく、管理職に気軽に相談したり、政策について直接議論したりと、民間出身者ゆえに感じる不明点・疑問点を含め、抱え込むことなく仕事に取り組めたことは、仕事をスムーズに進める上でプラスでした。業務量に関しては、確かに多いと感じるときはありますし、帰りが遅くなる時もありますが、やるべきことが明確にあって、それぞれの業務の目的や意義を自分なりに咀嚼しつつ、急を要するもの以外は自分のペース・段取りで仕事ができるので、仕事はやりやすいです。

あと、実際に働いてみると、行政は国民のために働いているんだなと実感しました。

ー金融機関と大きく異なる点やギャップを感じた部分があれば教えてください。ー

そうですね。まず、共通する点も多くあると思っており、仕事に対する姿勢や個々の作業は官民で大きく変わらないのかなと思いました。また、経産省も金融機関も、幅広い業種を相手にするということなどで似ており、様々な業界と関わる中でマクロ的な視点が求められるのは同じかなと思います。

その上で、違いを感じた点としては、求められる専門知識の深さですかね。行政だと技術的な面を含め、所管する業界の細かい部分まで知っていなければならないですし、業界・企業の中で「プロ」と称される方々と議論をし、政策を作っていくといけない場合もあります。ここは民間企業との大きな違いであり、専門知識の理解には苦労しました。



自分のペースで仕事ができる環境

ーどのようにしてその点はキャッチアップされましたか？ー

中途半端な理解のまま仕事を進めることはよくないと思い、わからないところは正直に聞くようにしていました。事業者から説明をいただく機会では基本的なことを含め聞いたり、法律の解釈や政策の方向性の考え方などはプロパーの上司や後輩に頼るというような感じです。門外漢という立場を言い訳に使いつつ、いろいろ聞くようにしていましたし、周りの方々から親切・丁寧に教えていただいたおかげで、何とか仕事になっています。

ー電取委での業務で印象深いものや業務を通じて感じた魅力はありますか？ー

着任4か月目から約半年間続いた託送料金審査の業務が最も印象的です。送配電網の利用料金に係る新制度「レベニューキャップ制度」が導入されることになり、事業者10社分の5か年計画の検証・審査を行ったのですが、審査方法が刷新され、また10社一斉というプロパー職員ですら過去に経験がない大規模プロジェクトの取りまとめを任せられ、手探り・手探りで非常に大変でした。設備建設や研究開発等に係る予算の精査であったため、先ほどもお話したように非常に専門的で、検証は簡単ではありませんでしたが、審議会の有識者とも議論をしながら、とことん審査を行い、やり遂げた後は、この上ない達成感があり、国民のためになる仕事ができたと実感もありました。様々な課題を抱える送配電網を将来に亘って持続可能にするための新制度導入でありましたが、そうした、国家レベルの課題解決・政策形成は、行政の立場だからこそできる経験・魅力だと思います。

ー業務を通してご自身の経験が生きた瞬間、逆に電取委で手に入れた知見などあれば教えてください。ー

金融機関で培ったコミュニケーション力や交渉力、分析力は大いに役立ちました。情報の非対称性がある中、相手の本音を引き出したり、真実を見極めることができたと思います。

一方で、電取委に来て初めて見える景色が多く、物事を考える際に考慮すべき時間軸やステークホルダーの範囲・レベルは非常に勉強になりました。

ーありがとうございます。最後になりますが、何か一言！ー

民間ではなかなかタッチできないような大きな責任の伴う仕事の中心的役割を、電取委で経験させていただくことができ、今後の社会人人生における貴重な財産となりました。業界知識も官僚経験も皆無でしたが、それでも活躍できるフィールドはここにあります！

国家レベルの課題解決・政策形成は、行政の立場だからこそできる経験・魅力

